

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100034		
法人名	医療法人社団 仁智会		
事業所名	グループホーム元菊		
所在地	石川県金沢市元菊町20番1号		
自己評価作成日	令和2年2月14日	評価結果市町村受理日	令和2年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和2年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

金沢駅より徒歩圏内。医療やリハビリ、介護など総合的にサービス提供を行っている、金沢春日ケアセンター内3階のフロアにグループホーム元菊があります。近隣にはスーパーマーケットや公園などがある利便性の良い場所です。大きな建物や多職種が連携できる利点を生かして日々サービスの向上に努めています。それぞれのご利用者が送ってこられた生活様式や趣向を大切に考え、今までと変わらない 家庭的な暮らしにできる限り近づけるようお手伝いいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との付き合いは、クリニック、老健、ケアハウス、デイサービス等を併設している大規模複合施設のため、町会の活動に直接的に加わることはあまりないが、太鼓行列の時には二つの町会の人々が訪れてくれたり、地域の学童保育の子らがクリスマスにカードを持って訪問してくれている。法人の夏祭り、秋祭りには地域の人達も訪れて、盆踊りや模擬店、よさこい踊り、落語、太鼓演奏を楽しんでいる。  
食材は近くのスーパーへ利用者と一緒に買い物に出かけている。最近は重度化が進み、外食よりも「ホームの中でおいしいものを食べる」ことに取り組み、魚料理の頻度が多くなっている。それでも年末には外食に1度出かけている。食事の時には、職員も一緒に同じものを食べ、食材や味、世間話などで食事の時間を楽しんでいる。10時ドリンク、15時おやつの時間であり、おはぎ、シフォンケーキ、ホットケーキ、たこ焼きなど手作りおやつで楽しむこともある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に、グループホーム元菊独自の理念を作り、理念を念頭においたサービス提供を心がけている。	母体の医療法人社団の理念として「人間としての尊厳を守る介護」を掲げている他に、グループホームとしての独自の理念を定めている。管理者は、ミーティングの時や、職員が実際の利用者に対するケアの場面で迷った時等に理念に基づいて語りかけている。新任の職員に対する、初任者研修の時には、法人理事長が自ら理念についての研修を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	百万石まつりに併せた子供会による太鼓行列の訪問やキリスト教会によるクリスマス会などで交流の場を作っている。	クリニック、老健、ケアハウス、デイサービス等を併設している大規模複合施設のため、町会の活動に直接的に加わることはあまりないが、太鼓行列の時には町会の人々が訪れてくれたり、地域の学童保育の子らがクリスマスに訪問してくれている。法人の夏祭り、秋祭りには地域の人達も訪れて、盆踊りや模擬店、よさこい踊り、落語、太鼓演奏を楽しんでいる。食材は近くのスーパーへ利用者と一緒に買い物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々も交えた運営推進会議の場で、日頃の認知症介護の実績や方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議で、議題の他に活動報告や意見交換の場も作っている。	家族、金沢市、地域包括、町会長、地区社協等が参加して2か月に一度開催している。毎回テーマを決めて、身体拘束廃止の取組や認知症の研修、感染症、事故報告、職員人事、利用者の状況、行事等について報告し参加者から、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	判らない事があれば、直接市の介護保険課に問い合わせている。	金沢市主催の研修や、セミナー、会議等がある時にはできるだけ参加するようにして、市との連携を図っている。管理者は、何か不明な点があればその都度市へ連絡して、指導してもらっている。今年度は、昨年末に移乗時に骨折事故が発生して、介護保険課に適正に報告を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての弊害を研修の場を使って職員に伝えている。委員会についても3か月に1回行い、身体拘束をしていないという実績を確認している。	身体拘束廃止の指針があり、グループホーム内部での研修と法人全体での研修をしている。勉強会（適正化のための委員会）を3か月ごとに行い、運営推進会議で報告している。玄関の施錠は、夜勤の職員の勤務時間帯に、防犯上の観点で実施している。また、転倒予防のためにセンサーを使用している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々の介護等の姿勢が虐待につながらないよう管理者を中心に各職員気を付けている。日頃のご利用者の変化を見逃さないよう気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心に学習の機会を持っているが現状では日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用しているケースはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な理解が得られるよう説明をすると共に、説明の中でも話を振り返り疑問がないか確認している。 契約後も適時、相談や質問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の責任者は管理者であるが、職員全員が要望などを受け付けられるよう体制を整えている。介護相談員も受け入れ、意見交換も行っている。	法人全体で、建物の入り口に意見箱が設置されているが、特に意見は寄せられていない。苦情の体制も整備され、重要事項などで周知が行われているが特に苦情もない。職員は家族来訪時に、家族とよく話して、利用者の近況を伝え、家族の要望を聴取している。今年度は家族から、一緒に外食に出かけたいという要望があり、市内のホテルに昼食を食べに出かけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日頃の会話の中で意見提案を聞き取り、場合によっては稟議書を書くなどして運営に活かしている。	法人内3か所のグループホームを統括する責任者がおり、頻繁に事業所を訪問して職員と話す機会を持っている。管理者は職員と同じシフト勤務に入っているののでいつでも職員の意見や提案を聴くことができる。人事考課制度の一環として、毎年職員が自己査定を行い、それを管理者、上席の責任者がチェックしている。自己査定には職員の希望等も記載することができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の給与査定制度があり、職員全員が自身での評価を行っている。そこに管理者が評価を加える事で給与への反映をしている。個々の希望をシフトに反映させ働きやすい職場を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他グループホームと情報交換をしたり他事業所と交流したりしている。 医療職やリハビリ職員とのネットワークも作っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話には共感と共に傾聴している。泊まりのサービスに抵抗がある場合でも一日一日を乗り越えられるよう、ご本人の訴えに併せ声かけをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者だけでなくご家族も支援の対象と考え困っている事不安な事を聞きだし共に解決策を模索している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談を踏まえて、他のサービスの検討も含め、担当ケアマネージャーや関連職種と話し合いグループホーム入居に至っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者からは戦後の貴重な体験を聞かせて頂いたり、料理の工夫を教えてくださいするなど、日常生活を共に送る者として対等の立場を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時または変わりがあった時などに情報の共有に努めている。 また、ご本人のこれまでの様子をお聞きする事でサービスに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、職場の元同僚やご学友近所のかたなどの面会がある。その都度状況に併せて、フロアで面会をしたり居室でゆっくりと面会をしたりしている。馴染になっているご家族では他のご利用者も交えて話をされている。	入居時には、自宅で使用していた家具や、電化製品、自分の箸や食器等使い慣れたものを持ってきてもらっている。入居後も家族と温泉に出かけたり、墓参り、家の整理に出かけたりする方もいる。備品としてダンス、椅子、ベッド、机等が用意されているが、家で生活したように配置を自由に変える人もいる。友人や親せきの人もよく訪問してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士席が近くなるよう配慮している。 職員も加わって談笑したり、レクリエーションをしたりと和やかに過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に行かれる場合、これまでのサービスの工夫や状況などを伝えている。 退居後であっても相談があれば対応している。 また同じ建物内であればお見舞いに行く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の記録や普段のコミュニケーションの中からご本人の希望や意向の把握に努めている。可能な事に関しては即実行するようにしている。難しい場合でも他職種も含めて検討ができる事とできない事の判断をしている。	言葉によるコミュニケーション以外に、利用者のそぶり、顔の様子、元気さ等を観察して、その人の想いにアプローチしている。職員は、利用者はこんな思いなんじゃないだろうかと探ってみて、当日勤務の3人で話して検討し、その結果を申し送ったり、記録して共有している。また、家族からも今こうなんだけど、家ではどうだったのかと確認して、本人本位の検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴やサービスの利用状況について聞き取りを行っている。 入居後もご本人やご家族などに、普段の会話の中で聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でご本人の強みがないか模索している。ご本人の強みを生かす取り組みに関しては担当者会議で話し合いプランに活かすだけでなく、すぐにできる事に関しては即実行を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者ご本人やご家族と面談。アセスメントを行い、仮プランを作成。サービス担当者会議で介護職と共同のうえ介護計画を作成している。	計画作成担当者と職員が協働してアセスメントを行い、計画作成担当者が原案を作りサービス担当者会議でプランの周知、確認をしている。毎月計画作成担当者がモニタリングを行い、大きな変化がなくても半年ごとに計画を更新している。介護経過記録は、ケアプラン2表のニーズの番号を振ってから、ケア内容と考察・処置・評価の項目に分けて書かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護経過記録に記載。摘要を申し送りに転記し周知を図っている。これらの書類と介護士への聞き取り、本人との面談をもとにモニタリングを行い、介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の際に配慮したり、建物内の専門職との協働を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんによる催し物があったり、通院が困難な場合には往診をして頂ける医療機関を紹介するなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に関しては、階下のクリニックにするかまた馴染の主治医にするか入居時に希望を聞いている。何かあった時の緊急搬送先についても確認している。	1名以外は一階にあるクリニックが主治医となっているので直接医師と連絡を取り合っている。もう1名の利用者の主治医も往診してくれるので医療の連携体制は整っている。他科受診の場合家族送迎となりその場合には、家族を通じて連携を図っている。精神科受診の場合は、利用者の様子について詳細に伝える必要があるため、職員が付き添い医師と直接に話している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の事業所への配属はないが、金沢春日ケアセンターの建物内には看護師がいる。適時相談したり来所しての状況確認をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病棟に直接申し送りをするだけでなくサマリーなどで情報提供を行っている。また、退院時も介護支援専門員が訪問を行い状況の確認をしている。場所が変わる事によるダメージが軽減されるよう細かな情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医等医療職も含めて、もしもの時の話し合いをしている。 直近での看取りは行っていないが、環境がバリアフリーであったり建物内に入院病棟があったりすることから重度化してもグループホームでの生活を継続されている場合もある。	医療連携加算の算定はあるが、看取りの事例はない。グループホームとしては、口から食べ物をとることが出来なくなったり、医療管理の度合いが高まってきたときには施設の移行を検討している。同じ建物内のクリニックの医師が家族と面談して入院や、入所について説明している。同一の建物に入所施設も病院もあるため移行する場合にも割合スムーズで、次のところへ移行するまでは当然グループホームでケアしてくれるため、家族の負担も少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時に備えて、職員の配属時にオリエンテーションをするだけでなく随時教育訓練を行っている。 また予見される病状の変化に対しては、事前に医療職にアドバイスや指示を貰っている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時マニュアルや連絡網を整え、マニュアルに基づいて教育訓練を行っている。	「緊急時」というファイルがあり、「緊急連絡網」、「緊急時のマニュアル」、「119番通報マニュアル」がファイルされている。また、「感染症対策マニュアル」というファイルがあり、「感染防止体制」、「感染予防策」などが明記されている。法人として月1回の勉強会があり、事故や感染症などテーマ別に実施し、その際にマニュアルの周知にも取り組んでいる。また、管理者が感染症委員会の委員であり、委員会後には事業所で伝達し、マニュアルの周知にも繋げている。見直しは、法人本部で取り組まれている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	階下に内科のクリニックが併設されており、渡り廊下でつながった介護老人保健施設が併設されている。ご利用者の急変だけでなく火災天災の場合も協力体制をとれるようにしている。 通所部門もあり車両を使うなどの場合協力を貰っている。	協力医療機関は、同じ建物の金沢春日クリニックであり、2週間に1回往診に来ている。緊急時など1年を通し終日連絡が取れる。利用者1名は他の医療機関を主治医としており、月1回往診してもらっている。また、歯科は6階で週1回診療日があり、必要時受診している。皮膚科も週2回往診に来てくれる。バックアップ施設は、金沢春日ケアセンターであり、防災訓練、委員会、催物への参加、勉強会など密に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は1ユニットに1名の夜勤者を配属させている。 夜間、ご利用者に急変があった場合は看護師を通じて主治医の協力を頂いている。	二人夜勤であり、19時から朝7時までは、二人体制である。「緊急時の対応」という文書が作成されており、「平日日中の対応」、「夜間・祝日の対応」と分けて示されている。夜間の緊急時等は、看護師、管理者へ連絡し、看護師が医師へ連絡し指示を伝える。救急車を呼んだら、担当ユニットの夜勤者が決められた書類等を用意し、救急車に同乗するため、管理者がホームへ応援に行くことになっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年の訓練を通じて火災天災に備えている。地域との協力に対しては、火災天災時には2次災害に繋がる事から地域住民は立ち入らないよう消防より指導を受けている。	防災訓練は、毎年春と秋の2回、金沢春日ケアセンター全体で、消防署立ち会いで実施されている。今年度は、9月26日に実施され、3月中にもう1回実施される予定である。消防設備点検も訓練と同じ日に実施され、消防設備会社も訓練に参加し、消防設備についての説明を受けている。また、7月10日には、「県民一斉防災訓練 シェイクアウト石川」に参加している。訓練の前に計画書が作成され、各部署で訓練報告書を作成している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	総務課にて災害時マニュアルや備蓄品の管理を行っている。	「防災マニュアル」が作成されている。火災、地震、風水害豪雪対策について記載されている。マニュアルの周知は、訓練の機会に周知し、見直しは法人本部が行っている。備蓄は、法人総務課において管理されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一律に敬語等を使ってはいないが年長者である敬意を持って対応をしている。 プライバシーが確保されるよう記録類の保管や職員同士の声かけにも配慮をしている。	「グループホーム業務手順」というファイルがあり、この中の「介護業務」として、●その人らしく生活が送れるよう支援する。●倫理責任を理解したうえで支援する。●QOL(生活の質)の向上を常に心がけるなどが示されている。日々の取り組みとして、「入居者に合った言葉かけ対応」や「入居者の思いに沿った支援」を心がけている。また、年長者への敬意をもって接したり、プライバシーが確保されるように、職員間での話のやり取りにも配慮している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員のペースで介護をするのではなく、自己決定ができるよう、ご本人の状況に合わせて、選ぶことや判断する事を日常的に支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日に散歩に出かけたり、気分に合わせて入浴したり、ご本人の思いが叶うよう対応している。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、ご本人にできる事はして貰いつつ整髪や整容の支援をしている。髪型などに対しても希望を聞いて訪問理容等でパーマをかけたり染髪をしたりしている。毎日お化粧をするご利用者もおいでる。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日台所仕事をして頂けるご利用者がおいでる。何人か仲の良い利用者同士共同で食事の下ごしらえをして下さる場面もある。	献立は、職員が1週間交代で作成している。作成する前には、利用者にも希望を聞いたりもしている。食材は、毎日買い出しに行っている。重度化が進み、外食よりも「ホームの中でおいしいものを食べる」ことに取り組み、魚料理の頻度が多くなっている。それでも年末には外食に1度出かけている。食事の時には、職員も一緒に同じものを食べ、食材や味、世間話などで食事の時間を楽しんでいる。10時ドリンク、15時おやつ時間であり、おはぎ、シフォンケーキ、ホットケーキ、たこ焼きなど手作りおやつで楽しむこともある。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いなどの嗜好も把握し気持ちよく食べて頂けるよう盛り付け時に配慮している。咀嚼や嚥下の状態に合わせて、形態を工夫したり、水分も好きそうなものを提供したりしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者それぞれの方法で口腔ケアを行っている。口腔ケアの介助をしたり入れ歯の手入れを一緒にしたりもしている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人のリズムに応じてトイレ誘導を行っている。尿取りパットも状況に合わせて使い分けたり、ご高齢であってもリハビリパンツやパットを使わずに生活しておられるご利用者もいる。	排泄チェック表があり、声かけなどが必要な方のみ確認をしている。利用者個々の生活リズムに応じて、タイミング良い声かけを行い、トイレで排泄し、失敗を防ぐことが出来るよう取り組んでいる。現在、リハビリパンツやパッドを使わずに生活している方もいて、自立した生活が継続できるよう支援している。そのため、乳製品やオリゴ糖を使ったりして、薬を使わずに自力排便できるように工夫している。あるいは、用途に合わせてリハビリパンツやパッドを選び、快適に過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排泄のリズムを把握し、薬のみに頼るのではなく乳製品や水分補給などで排便を促す努力をしている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	シャワーチェアなども活用しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。 お風呂の日は決まっておらず、さりげなく声かけをする事で定期的な入浴ができています。	「グループホーム業務手順」の中に「入浴」の項目があり、●本人の意思を確認する。●プライバシーを守る。●できることはしていただき、必要な時介助を行うなどが示され、マニュアルの主旨に沿った支援を心がけている。日々の取り組みは、お風呂は毎日お湯を張り、利用者には週2回は入浴してもらっている。毎日入浴を希望する方もいて、可能な限り入浴してもらっている。また、熱い湯の好きな方、長風呂、お湯を流しっぱなしの方など、可能な限りその方が満足できるように支援している。入浴介助は1対1の介助なので、コミュニケーションを取る良い機会にもなっている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時や日中でも眠い時等は短時間の臥床を促し気持ちよく過ごせるよう支援している。 夜間も安心して眠れるよう、お一人お一人のタイミングに応じた声かけや介助で横になって頂いている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きをファイルにし必要時閲覧するほか、薬剤師などの専門職に直接問い合わせる事もある。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事や縫い物など、これまでしてきた事を続けているご利用者や、好きな馴染の歌を唄ったりするご利用者もおいで。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くにスーパーマーケットや公園などがあり気分転換に出かけている。場合によっては車いすを使う事もある。ご家族の協力で冠婚葬祭に出かけたり、自宅に短期間帰られるご利用者もおいで。職員は必要な物品を整えたり外出先での注意事項をアドバイスしたりしている。	気候の良い時期は、買い物や散歩に出かける。散歩は、敷地内の駐車場スペースを散歩したり、近くの公園へ出かけたりしている。天候の悪い時期などは、建物内の7階のレクリエーションルームを散歩したり、建物内を散歩したり、1階の売店に買い物に行ったりしている。また、家族が面会に来た時、1階の喫茶で家族と一緒にケーキなどを食べ、ゆっくり過ごす方もいる。4月にはドライブ兼ねて花見に出かけ、年末には出かけられる方のみであったが外食に出かけている。家族と外出する場合には、外出時に必要な物品を準備するなど、外出するための支援を行っている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の危険性がある事から高額の所持は控えて頂いているが、これまで使ってきた財布に少額を入れ大事に持っていたり、1階の売店や外出先で好きな物を購入するご利用者もおいで。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいという要望があれば、職員が電話操作の代行をし、ご家族の声を聞いて安心されている事もある。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の日にちや曜日暦が分かるよう日めくりカレンダーを置いたり季節ごとの飾りつけで季節感を感じられるように工夫している。 昼夜とも柔らかい照明や冷暖房、窓を開放しての外気等で心地よく生活できるようにしている。	「グループホーム業務手順」の「環境整備」として、●廊下手すり、食堂テーブル、椅子、洗面所、ホールのソファの掃除を行う。●採光、換気、温度調節。●掲示物の点検などが示されている。日々の取り組みとして、手作りの季節の飾りつけや季節の花を置いて、季節を感じ居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。共用空間に関しては、午前中に委託業者が入り清掃をしており、清潔が保たれている。また、建物内を散歩したり、1階の売店に買い物に行ったりと安心・安全に生活できる環境となっている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者同士思い出話をしたり共同作業をしたりしている。 一人を好むご利用者でも、少し場所を離れて人の気配を感じながら好きな活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、スムーズに歩けるよう動線上に掴る所を作ったり転びそうな場所にしっかりとした家具を配置している。家族写真やテレビを持ち込むなど、居心地の良い環境を整えている。窓の外を眺めて楽しんでいるご利用者もおいでる。	入居時は馴染みの物を持ち込むように話している。居室にはタンス、机、椅子、エアコン、収納ボックス、洗面台が取り付けられているため、箸やコップ、写真やアルバムなどを持ち込んでいる。入居後も入居前に生活していた部屋の家具の配置と、可能な限り似た状況にし、安全な動線を確保するよう配慮している。また、週1回シーツ交換日があり、1日1~2名の方のシーツを交換する際に、念入りに居室の清掃を行い清潔を保っている。居室はプライベート空間であるので、基本本人の好きなように使ってもらっている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには見やすい表示をし間違ったり戸惑ったりしないよう配慮している。 建物内はバリアフリーで移動しやすくフロア内の随所にも手すりが設置してある。		